

美術部へようこそ! おやま 栃木県小山市立小山中学校

栃木県南部に位置する小山市。豊かな自然に囲まれた小山中学校の美術部は、毎年、運動会のために大きな横断幕を共同制作します。今回はその活動を中心にお伝えします。

巨大な横断幕の制作

校庭のバックネットに縦3.6メートル、横7.5メートルの巨大な幕が掲げられる。小山市立小山中学校の運動会では、毎年、美術部が制作した横断幕を飾るのが恒例となっている。幕は運動会でいちばん目立つ存在として、訪れた地域の人たちがその前で記念撮影したり、クラスごとの集合写真の撮影が行われたりする。「最初に幕を制作したのは7年前。徐々に根づいていき、今では『今年は何んな図柄なの?』と、楽しみにして下さる方が多く、励みになっています」と話すのは、顧問の佐藤かおる先生。毎年、9月の運動会に向けて、夏休みの部活動はすべて幕の制作に充てる。図柄は年ごとに変わり、今年は富士山が世界遺産に登録されたことにちなんで、日本の世界遺産をテーマにすることに決めた。

「OHPを使って、下絵を拡大投影し、大きな布に図柄を写していきます。真夏にカーテンを閉め切って作業するので、汗だくになって大変なんです(笑)」と、3年生の部員が教えてくれた。3年生にとっては、3度目の制作。リーダーシップを発揮し、後輩に丁寧に指示を出しながら、てきぱきと作業をこなしていくそうだ。「つくるのは大変だけど、運動会で自分たちが制作した幕を見るとすごく誇らしい気持ちになりま

す」と2年生の部員はうれしそうに話していた。

活動を外へ発信する

美術部は運動部と違って、大会などがないため、成果が見えにくい。だからこそ、佐藤先生は美術部の活動を外へ発信する場を大切にしたいという。「そこで、褒めてもらったり応援してもらったりすることが、生徒たちの自信につながるんじゃないでしょうか。」

横断幕の制作以外には、正門の脇に掲示する「月の予定表」を制作するのも、美術部の役割だ。毎月、季節に合ったモチーフを選び、色紙や絵の具を使って、かわいらしい予定表をつくる。また、職員室で使われているペーパーウェイトも美術部員の手によるもの。学校のあちこちで、美術部の活躍を見ることができる。「教師から『こういうものをつくってもらえない?』と美術部へ依頼することも多い。みんな、美術部へ期待をしているんですよ」と濱口隆晴校長は笑顔で語る。

校内の制作以外には、益子町ましこへ行って焼き物をつくったり、東京の美術館へ出向いて美術鑑賞を行ったりもする。「本物」に触れてほしいという、佐藤先生の思いからだ。

現在は文化祭の作品制作の真っ最中。放課後の美術室からは、今日も部員たちの明るい声が響いていた。



今年の幕は、富士山、白川郷など日本の世界遺産をテーマに制作された。現在の部員数は20名だ。



左/文化祭に向けて、作品のアイデア出しをする。アットホームな雰囲気笑顔が絶えない。右/生徒たちが制作した益子焼。その完成度の高さには驚かされる。



撮影 鈴木俊介

野外造形展は楽しい

とよた子ども造形フェスティバル

愛知県豊田市で毎年野外造形展が行われています。スタジアムにずらりと並ぶ子どもたちの作品は圧巻。その模様をお伝えします。



サッカーをはじめとして、さまざまなスポーツの試合が開催される豊田スタジアム。普段はスポーツファンが集まるこのスタジアムに、毎年秋にはたくさんの親子連れの姿が見られる。その視線の先には、子どもたちがつくった数々の作品がある。

愛知県では、多くの地区で野外造形展が行われている。その一つが、豊田市の「とよた子ども造形フェスティバル」である。第30回(2010年)より、豊田市美術館前の枝下公園から豊田スタジアムへと会場を移した。市内の小・中学校や特別支援学校、こども園、幼稚園、保育所の子どもたちがつくった全作品を展示している。スタジアムの外周を一周するように作品が並び、ゆったりと鑑賞できるのがこの造形展の特徴だろう。

展示されている作品の中には、普段の生活で使いたいと思わせる

ものが多い。ヒノキを素材にしたランプシェード、お気に入りのCDを飾る椅子型CDラック、木彫のフォトフレームなど、ずっと使い続けたいような作品が所狭しと並んでいる。

会場を訪れる人々は、自分の子どもや孫の作品、あるいは近所に住む子どもの作品を見つけて会話を弾ませている。子どもたちが作品に込めた思いは、地域に元気を届ける。「とよた子ども造形フェスティバル」は今年で33回目。これから先も、子どもたちの思いをのせて、野外造形展は楽しく続いていくだろう。



自分の制作した作品を保護者といっしょに見つめる児童(2012年10月)。

放課後

第4回

A R T